

2020年
1月10日
金曜日

井口 泰 教授（労働経済学）

「あかひきの空の美しき星よ」

（経済学と聖書・第21回）

「人間の心は、自分の道を考えている。しかし、主が一步一步を備えてくださる。」（箴言16…9・ルター訳聖書をもとに改訳）

讚美歌21・27「あかつきの空の美しい星よ、まことの光。エッサイの切り株の新しい枝よ、ダビデの子イエス。主よ、主よ、とうとい恵の光よ、わが王、わが主よ。」（ドイツで愛唱される讚美歌。16世紀後半の牧師Hilbig Neocianの作詞・作曲）

年老いたソロモン王の語る箴言は、預言者の書ではないのですが、ユダヤ教、キリスト教、それにイスラム教でも読まれる共通の聖典です。王は、人間は自分の生涯を見通すことなどできないと認め、私たちが日々、神様の言葉に聴いて一歩ずつ進むよう勧められています。

伝統的な経済学は、将来が全て予想できる前提でモデルを組立て、経済主体が利益を最大化することを合理的と考えました。しかし、それは

現実には可能なのでしょうか。

実際の経済活動では、一年先といえども将来を予測することが不可能です。近年、短期の利益を重視する傾向が強まる先進国では、企業は株主資本利益率を高めることに熱心な反面、突如、環境問題や製造物責任、消費者からの訴訟で経営が危機に瀕する事件も、頻繁に起きています。

経済学における功利主義的な仮説は、学生の皆さんの価値観にまで影響しているように感じます。個人の利益を追求し、競争に勝つことが人生の目標だと思っていたゼミ生がいます。大学教育は、単位をとって就職する手段だと割り切っている学生もいるのです。私は、それにシヨックを受けました。

今年、地球温暖化対策への国際協調が進んだように見えながら、地球環境は破壊され続けています。各国の国内経済格差が拡大し、政治的にも社会的に不安定な世界が出現するリスクがあります。しかも現代

は、グローバル化とデジタル化が同時に進行する前代未聞の大きな変化の時代です。

心の余裕を失った人々は、世界の動きを正確に把握することが難しく、何がファクト（事実）で、何がフェイク（虚偽）か判断が難しくなります。その結果、人類に共通する正義の概念や、広く連帯する意識も、一層弱まっているようにみえます。

誤解しないでいただきたいのですが、ソロモン王は、人間がビジョンをもち、将来を積極的に計画する必要性を否定しません。大事業を成し遂げた王は、視野を広くもち、表面的な理解に満足せず、新たな人生を開く必要性を知っています。しかし、人間は一人でそれを実現することはできないし、多くの失敗や破綻のリスクも伴います。それでも自分の抱える困難や問題で、自分の心を一杯にしてはなりません。ほかの人々の困難と苦しみを放置せず勇気をもって行動すべきです。

日本の多くの方々は、仕事や生活に追われ、先を読む能力も努力も不足しがちです。新興国との新たな協力や連携の可能性と重要性に本当に気づいているといえません。専門外のことを広く考える能力の欠如もかなり深刻です。若い世代の海外留学では、9割以上が1か月未満の滞在で経験しなく、日本人の多くは世界で協働する経験と能力が決定的に欠けていると知るべきです。

しかし、神様は、困難で苦しいときこそ、それを乗り越えた世界を夢見る能力を与えてくださいます。イエスは、弱いところに最もはたらくてくださいます。ですから、皆さんも、毎日聖書を手に取り、その言葉から力をもらってください。冬の早朝、東の空に美しい星（金星）を見つけたとき、黙示録第22章16節の言葉を思い出してください。あなたのように祈っています。